令和７年度　さいたま市立土呂中学校　学校だより

見沼のほとり

第　５　号
令和７年８月２７日

学校教育目標　　主体的に生きる人間の育成　≪意欲・健康・豊かな心≫

長い夏休みを終えて

校　長　　金子　慎一郎

長い夏休みが終わりました。この期間中に全国高等学校野球選手権（夏の甲子園）が開催されました。埼玉県からは越谷の叡明高等学校が１５２校の代表として出場し、１回戦で三重県の津田学園高校に４対５で惜しくも負けてしまいました。大会は西東京代表の日本大学第三高等学校（以下日大三高）と沖縄県代表の沖縄尚学高等学校（以下沖縄尚学）で決勝戦が行われ、沖縄尚学が優勝しました。沖縄県代表として夏の甲子園で初優勝を果たしました。振り返ると、この大会では延長戦までもつれ込む試合が多数あり、観戦している側にも緊張が伝わってきました。私はこの大会で特に印象に残っている試合があります。それは、県立岐阜商業高校と日大三高との試合です。生まれつき左手の指が欠損している岐阜商業の横山温大外野手（３年）が一度は同点に追いつく犠飛を放つ大活躍をしていました。守備でも素早い返球をして走者を進塁させなかったりして、その活躍に感動してしまいました。横山選手は、両親ら周囲へのサポートに加えて、藤井潤作監督にも「監督は特にやっぱり自分を使うのはとても勇気がいることだと思った。周りの目を気にせずに、周りの子と関係なく自分を使ってくれた」と恩師への感謝を口にしていました。自分のことだけでも精一杯だったと思うのに相手や監督のことまで考えることができるなんて、人物的にも素晴らしい人なのではと想像できます。残念ながら準決勝で敗退してしまいましたが、記憶に残る名勝負だったと思います。また、岐阜商業のキャプテンの河崎選手は甲子園出場までの道のりを次のように言っています。「簡単な道のりではなかった。今春の県大会では準々決勝敗退。河崎選手は、何をすべきか必死に考え、一つの答えを導き出した。『応援されるチームにならないと』と。３年生らを巻き込み、毎朝校内の掃除を始めた。『学校のお手本になる野球部』が目標だった。掃除を始めてから、応援してくれる人も増えた」。このような取組があったからこそ、周りから応援される強いチームに成長したのだと思いました。

土呂中学校でも、暑い夏休み中に盛んに部活動が実施されていました。新チームになり目指す目標が決まり、そこに向けて頑張ってくれていますが、「何のための練習なのか。誰のための練習なのか。何となくの練習になっていないだろうか。」じっくりと考えて答えを導き出してほしいと思います。さらに７月３０日に「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」が開催されました。本校からも生徒会長の清水心結さんが代表として参加し、大砂土中、島小の児童生徒とお互いの考えを交流し合い、いじめ防止に向けたメッセージを練り上げていきました。当日は４５グループの発表が行われ、ストップいじめの輪が広がりました。

さて、長い休みが終わり２学期が始まります。２学期は学校行事が多数計画されており、準備が始まっています。合唱コンクールでは指揮者、伴奏者の練習会が実施されたり、駅伝の練習が実施されるなど行事に向かって進み始めています。また、９月は「防災月間」と呼ばれていますが、皆さんはなぜ９月なのかご存知でしょうか？ ９月は災害が多いと言われていることや1927年９月に関東大震災が起こったことから「災害に備えつつ知識を深めること」を目的として９月１日が防災の日と制定されました。本校でも引き渡し訓練や避難所運営訓練など地域や保護者の方と協力して災害に備える活動を実施してまいります。日頃からもしもの時のために何が必要か考えておきましょう。例えば電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を備えるようにしましょう。